



<<<<< 目 次 >>>>>

| | |
|-------------------------|---|
| 第23回日本がん検診・診断学会総会開催のご案内 | 1 |
| がん検診・認定医制度委員会からのお知らせ | 2 |
| 子宮頸がん検診の課題とHPV検査の有効性評価 | 2 |

各学会からのTOPICS

第23回日本がん検診・診断学会総会開催のご案内

齋藤 豪 (第23回日本がん検診・診断学会総会会長)

この度、第23回日本がん検診・診断学会総会を下記の要領で開催いたしますので、ご案内申し上げます。

1. 会 期： 平成27年8月21日(金)・22日(土)
2. 会 場： ホテルさっぽろ芸文館
(〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目)
3. 会 長： 齋藤 豪 (札幌医科大学産婦人科学 教授)
4. プログラム： ・特別講演
滝澤聡子 (東レ株式会社)
福吉 潤 (株式会社キャンサースクアン代表取締役)
苛原 稔 (徳島大学医学部医学科産婦人科学分野 教授)
・教育講演
・一般演題 (ポスター)
・ランチョンセミナー
5. 演題募集期間：平成27年5月15日(金)～6月19日(金)
6. 問い合わせ先：〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目 札幌医科大学産婦人科学講座内
第23回日本がん検診・診断学会
第24回日本婦人科がん検診学会事務局
郷久晴朗
TEL：011-611-2111 (内3368)
FAX：011-614-0860
E-mail：takasu@sapmed.ac.jp

※第24回日本婦人科がん検診学会総会と合同開催となります。

※宿泊について

総会事務局では、宿泊のあっせんを行っておりません。

ホテル等については御参加の皆様にて各自ご手配ください。

がん検診・認定医制度委員会からのお知らせ

第10回がん検診認定医講習及び試験

日 時： 平成27年8月22日(土) 9:30～16:15(予定)

会 場： ホテルさっぽろ芸文館
(札幌市中央区北1条西12丁目)

受講・受験申込期日：2015年5月22日(金)～8月7日(金)

学会ホームページ：http://npo.jacdd.org/index.php?page=info_a04011
からお申し込みください。

第10回がん検診認定医講習及び試験プログラム(予定)

| 科 目 | 講師氏名 | 講師所属 |
|-------|-------|-------------------|
| 婦人科 | 小田 瑞恵 | こころとからだの元氣プラザ 婦人科 |
| 乳がん | 田村 元 | KKR札幌医療センター 外科 |
| 小児科 | 陳 基明 | 日本大学医学部小児科 |
| 肺 癌 | 前田 純一 | 東京医科大学 呼吸器外科 |
| 放射線科 | 久保田一徳 | 東京医科歯科大学 放射線診断科 |
| 胃・大腸 | 岡 政志 | 埼玉医科大学消化器肝臓内科 |
| 腹部超音波 | 小川 眞広 | 日本大学消化器肝臓内科 |
| 泌尿器 | 伊藤 一人 | 群馬大学泌尿器科 |

第9回がん検診認定医習熟講習会(予定)

日 時：平成28年1月23日(土)

会 場：日本大学病院

子宮頸がん検診の課題とHPV検査の有効性評価

森定 徹、青木大輔(慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)

現行の細胞診による子宮頸がん検診は、多くの観察研究の結果から死亡率や罹患率の低下が認められ検診としての有効性があると判断され、広くその実施が推奨されている。

近年、わが国の子宮頸がん検診において、新たな検査手法であるHPV検査の導入が検討されている。このHPV検査は、子宮頸部上皮内腫瘍(cervical intraepithelial neoplasia: CIN)以上の検出において感度では細胞診に勝り、特異度は低くなるのが複数の報告で示されている。感度が細胞診を上回るという事実は、これを用いた検診によってがんやCINの見落としが減少し、子宮頸がんの罹患率を減少させる可能性がある。しかしながら一方で、特異度が下回るという事実は、偽陽性者の増加につながり、このことは新しい検診手法に伴う不利益として評価される。

2013年2月に出された「がん検診のあり方に関する検討会中間報告」では、HPV検査の実施により期待される利益と配慮すべき不利益を考慮して、効果および不利益の程度、不利益を最小化するための実施方法、円滑な実施体制を自国で科学的に検証すべきとした。この中間報告を受けてわが国でも子宮頸がん検診としてのHPV検査の有効性評価が実際に2つ行われることとなった。

1つは、平成25年度厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)および平成26年度厚生労働科学研究委託費(革新的がん医療実用化研究事業)による「子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究」(研究代表者：青木大輔)である。もうひとつは、公益社団法人日本臨床細胞学会による「一般住民を対象とした子

宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査との併用法の有効性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS study) である。

両スタディとも、子宮頸がん検診において細胞診群とHPV検査を細胞診に併用する群を比較することによりHPV検査の有効性評価を行う。細胞診群と細胞診+HPV検査群をそれぞれフォローアップし、CIN3以上の検出数を比較する。その他、不利益の指標として精検受診回数やコルポ診・生検回数を比較する。これらの結果が得られるには7年程度の歳月を要するが、本邦での状況を妥当性のあるstudyによって把握して、HPV検査を子宮頸がん検診に導入すべきか否かの判断に資するエビデンスを作り出すことが目標である。

編集後記

初夏の候 皆様いかがお過ごしでしょうか。メールマガジンVol.4, No.2を発行いたします。2015年も早や6月に入りました。

さて本号では、第23回総会のご案内をまずさせていただきます。本総会は、齋藤 豪教授が会長を務められ、第24回日本婦人科がん検診学会総会と合同開催にて、真夏(8月21日、22日)に札幌で開催されます。会員の皆様方におかれましては、是非ともご参加頂きたいと思っております。

また同時にがん検診・認定医制度委員会より、第10回がん検診認定医講習及び試験のお知らせも掲載させていただきました。

次に、Vol.4, No.1号に引き続きまして、各学会のトピックスを掲載させて頂きました。今回は、「子宮頸がん検診の課題とHPV検査の有効性評価」について、森定 徹、青木大輔先生にご執筆をいただきました。メールマガジンの内容につきましては、会員の皆様方のご指導・ご鞭撻を今後も宜しくお願いいたします。皆様をご覧になる頃には、早い地域では梅雨入りの声も聞こえているかも知れません。季節の変わり目でもあり、会員の皆様におかれましては体調の管理にお気をつけ下さい。

広報渉外担当理事 森山光彦(日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野)

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会メールマガジン

2015年6月4日発行 Vol. 4 No. 2

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F(株)クバプロ内

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会

編集発行：株式会社クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：npojimu@jacdd.org URL：http://npo.jacdd.org/